

# 令和5年度 学校図書館活用実践報告

新潟市立青山小学校  
教諭 松谷 奈実  
司書 若杉 恵里

## 1 重点目標

- 読書の楽しさを感じ、進んで読書しようとする子供を育てる。
- 図書館の利用の仕方を知り、必要に応じて本や資料を選択・活用しようとする子供を育てる。

## 2 経営の方針

- ① 子供が読書の楽しさを感じ、読書に親しむ場となる図書館を目指す。
- ② 資料の準備、レファレンスサービスの充実を図り、学習を支える図書館を目指す。

☆ 図書館のスローガン

**図書館は、青山小の宝島！**

## 3 指導の重点

学年別の指導の重点	
1・2年	・やさしい読み物に興味をもたせ、楽しく読書をする気持ちを育てる。 ・図書館のきまりを知らせ、約束を守って利用できるようにする。 (貸し出し数のめあて・・・160冊)
3・4年	・いろいろな読み物に興味をもたせ、進んで読書しようとする気持ちを育てる。 ・分類、配架といった図書館の仕組みを知り、調べることの楽しさを体験できるようにする。 (貸し出し数のめあて・・・130冊)
5・6年	・読書を楽しみ、自分の考えを広げたり深めたりしようとする気持ちを育てる。 ・課題に合った資料を求め、適切に活用する能力を育てる。 (貸し出し数のめあて・・・90冊)

## 4 子供の実態 (昨年度の読書量と子供の読書傾向について)

昨年度の図書貸し出し冊数の平均は、低学年：196.9冊 中学年：178.7冊 高学年：168.3冊 全校平均は、180.5冊と比較的多い。10分間の朝読書や週末の「おうち読書」の継続など、じっくりと読書を楽しめる機会を増やしてきた。授業の合間のわずかな時間にも、本を手にとって読書を楽しむ子供の様子が見られることから、本に親しむ子供が多いと言える。

## 5 今年度の取組

### (1) 読書センターとしての機能の充実を目指して

#### ① 各学年の「おすすめの本」の奨励

- ・「おすすめの本」リストの掲載方法を見直し、貸し出しカードの裏面に変更。本を借りる度に子供が確認することができるようにした。
- ・「おすすめの本」リストは、学年ごとに設定。おすすめの本コーナーにまとめ、全員が手に取りやすいように展示方法を工夫した。また、各教室にも学校図書として配置している。

1～4年生 各20冊 計80冊 5～6年生 各10冊 計20冊

- ・1コース読み終わる度に、校長より『修了証』を授与。年間3回表彰を実施し、子供の意欲付けにつなげた。※高学年については本が長編のため、3冊読み終えるごとに銅・銀・金賞の表彰とした。



#### ② 「おうち読書」の奨励

- ・全校で週末読書に取り組んだ。子供がどんな本を読んでいるかを家の人に知ってもらったり、読書の様子を見てもらったりすることにつながった。長期休業前には『おやこ読書カード』を配付し、保護者へ家庭読書の協力を図書館便りを通して依頼した。

#### ③ 『この本よかったよ』カード 学年別冊子の展示

- ・校内読書旬間中に、今年度読んだ本の中からお薦めの本について『この本よかったよ』カードに記入。同学年の友達に紹介した。その後、カードを学年別に冊子にまとめ、図書館に展示コーナーを設けることで、他学年の子供も自由に手に取れるようになった。本選びの参考にしている様子が見られた。

#### ④ 外部との連携

- ・朝学習時に地域の読み聞かせボランティアによる語りや本の読み聞かせを行い、子供たちに本の楽しさを味わわせた。(全学級2回実施)



#### ⑤ 図書委員会による取組

今年度、図書委員会の活動の中で、“みんなにとって居心地のよい図書館”を目指して活動したいという考えが提案された。「たくさんの人に図書館に来てほしい!」「今まで以上に読書の楽しさを感じ取ってほしい!」という強い思いがあり、読書旬間や年間の委員会活動の中で、子供が中心となって下記のような取組を実践した。

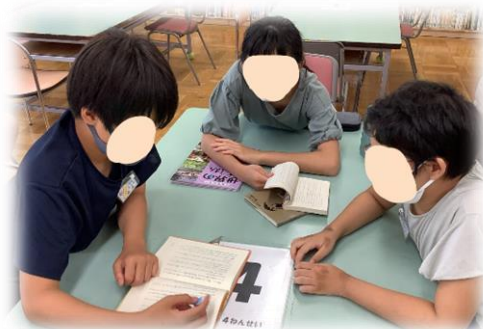
## ア 季節や話題の本のコーナーづくり、本選び



これまで司書が行ってきた、季節や話題に合った本や読書旬間に行われる「おはなし給食」（絵本の中のメニューや料理が実際の給食で食べられる企画）の本選び、話題の本コーナーの見出しづくりなどを、図書委員会が行った。本選定の理由やつくったコーナーの魅力などを昼の放送などで発信し、来館を呼び掛けた。

委員会の5・6年生が選んだ本

に全校が注目し、コーナーの前で立ち止まってポスターを見たり、実際に本を借りていったりする子供が多くいた。委員会の子供たちも、自分たちで選んだ本が借りられることや、実際の給食で絵本の中のメニューが再現されたりすることに対して、大変喜んでいて。



## イ 図書委員会による読み聞かせ（読書旬間）



司書と担任による読み聞かせを行ってきたが、委員会で「自分たちで読み聞かせをしてみたい」という申し出があったため、取り入れることにした。低・中・高学年を担当する3チームに分かれ、まずは本選びから開始。それぞれの学年の実態に合わせて、喜んでもらえそうな本、そして、読み聞かせに向けたちょうどよい長さの本をかなりの時間をかけて選んだ。



分担をしたり、お互いの読み聞かせを聞き合い、アドバイスをし合って動画を撮り直したりしながら、何度も練習をした。感染症予防対策などの理由もあり、動画撮影されたものを各クラスで見ってもらうスタイルとなったが、どのクラスでも静かに読み聞かせを楽しむ様子が見られた。

## ウ 活動紹介 CM 放送（読書旬間）

上記の他にも、朝読書や図書委員会のお仕事体験なども読書旬間中に行った。読書旬間中の取組を短くまとめたCM動画を撮影し、昼の放送で紹介して全校に知ってもらう機会とした。

## エ 図書館内の環境整備

ポップやポスターなど様々な掲示物を、図書委員会が新しく作り直した。子供の視点から作られたポップは、他の子供にとっても新鮮だったようである。



## オ 図書委員会のお仕事体験

図書委員会の仕事を知ってもらうために、希望者を募っての仕事体験を行った。今後、委員会活動をする中学年を対象に募集をしたところ、多くの子供が希望したため、2週間の「仕事体験ウィーク」を設けて実施した。

## カ 昼の放送

上記の活動の紹介の他、図書館への来館を促す放送を年間を通して行った。

## キ 小中連携に関わって（読書旬間）

### (a) 中学校の図書館紹介動画

届いた動画をロイロノートで全職員に配り、各クラスで見られるようにした。紹介は、読書旬間の取組の一つとして図書委員会が行った。入館したことのない中学校の図書館ということで、どのクラスでも興味深そうに動画を見る様子があった。



### (b) 中学校からの思い出に残る本ランキング

小針中学校で行ったアンケート『小学校の時に読んだ本の思い出に残るランキング』が届いた。委員会に伝えると、全校に紹介する動きがスタート。ランクインした本を集めて手に取れるように並べたり、ランキング表を作成し、図書館前の廊下に展示したりした。また、これらの本にまつわるクイズを全校に放送し、興味をもってもらえるように働き掛けていた。期間中は多くの子供が足を止め、注意深く本を手に取る様子が見られた。



(c) 小針中学校へのメッセージコーナー

上記の①と②の活動に対して、お返しメッセージコーナーを委員会の子供たちがつくった。中学校図書館紹介動画やランキングの本への感想を、自由に付箋に書いて貼れるようにしたものである。自分の書いたものが中学校に届くと知り、張り切って書いている子供が多く見られた。メッセージは冬休み中に中学校へ届けることができた。



(d) 東青山小学校・小針小学校との連携

各校同士で学年ごとの貸し出し冊数ランキングを紹介し合った。そこで、その上位3位までを紙面にし、図書館内に掲示した。同じ小学生のランキングに、他校ではどのような本が人気なのか、興味深そうに見たり、実際に借りたりしている姿も見られた。



(2) 学習・情報センターとしての機能

① 学校図書館全体計画の見直し

- ・学校図書館全体計画を見直し、部で検討後修正を行った。

② 図書館資料を活用した授業

- ・年度初めに、調べ学習など授業で利用する図書や、学習の発展として利用できる関連図書について、各担任にアンケートで希望をとり、準備やレファレンスサービスを行った。必要に応じて公共図書館も利用した。子供に検索する力を付けるために、L-Gateの利用等について子供の実態に合わせて各クラスで指導した。



③ 図書館利用についての指導

- ・「本の並び方・探し方」「図鑑・年鑑・百科事典の使い方」



などのオリエンテーションの実施。「図書館のマナー」「利用の仕方」「今年のみあて」についての指導も併せて行った。

④ オレンジボックスの活用（下記授業実践に明記）

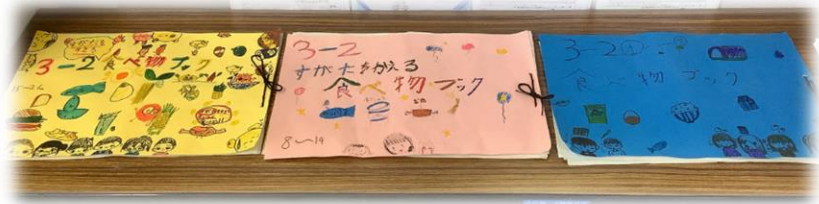

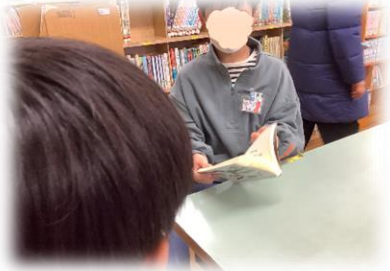
⑤ 新聞の活用

- ・ 図書館内に新聞コーナーを設置。情報充実のために今年度から2社の新聞を取り扱い、授業でも活用できるようにした。

(3) 各学年の授業実践

学年	教科	「単元名」主な活動内容 等
1 学年	国語	<p>「じどう車くらべ」</p> <p>本文の読み取りの後、「じどう車ずかん」を作る活動をスタート。図鑑から自動車を選び、『しごと』『つくり』がどのようなものかを調べ、自分で整理した。分かったことを文や絵などでまとめてオリジナルの「じどう車ずかん」を完成させた。</p> <p>※オレンジボックスも活用</p>
2 学年	国語	<p>「スイミー」「お手紙」</p> <p>作品に触れ、レオ＝レオニヤアーノルド・ローベルの他の作品を学年に貸し出し、子供が読み広げられるようにした。その作者の世界観を好きになり、シリーズ全巻を借りようとしたり、何度も読み返しながらかお気に入りの1冊を見つけたりする姿が見られた。</p>
	生活科	<p>「うごくうごく わたしのおもちゃ」</p> <p>動く仕組みを工夫して考え、世界に一つだけのオリジナルおもちゃづくりを行う単元。教科書だけでなく、図書館にある本の中に参考にできる仕組みがたくさんあることを紹介した。</p> <p>写真や仕組みの図説が丁寧に書かれている書籍をもとにし、オリジナルのおもちゃを楽しそうに作っていた。完成したおもちゃの紹介も自信をもって行った。</p>
3 学年	国語	<p>「すがたをかえる大豆」</p> <p>単元に入る前に、本や図鑑など多くの書籍を準備。姿を変える様々な食べ物について知るところから学習をスタート。</p> <p>本文の学習の後、自分でテーマを決めて、それについて詳しく調べ、オリジナルブックをつくる作業を実施。その際にも、最初に準備した書籍を活用した。</p> <p>完成したオリジナルブックは廊下に展示し、誰もが手に取って読めるようにした。</p>



		<p>※オレンジボックスも活用</p>  <p>「三年とうげ」</p> <p>本文学習後、他の民話もいろいろと楽しむ時間を設け、その中でお気に入りの民話を選んだ。</p> <p>選んだ民話を読み深め、面白さや魅力をそれぞれがまとめたり、お互いに紹介し合ったりした。</p> 
4 学年	総合	<p>「福祉ってなあに？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な生活の中にある福祉や福祉に関わる施設について書籍を用いて調べた。</li> <li>・福祉を支える様々な仕事について、書籍を用いて調べたりゲストティーチャーから話を聞いたりした。</li> <li>・「誰かのために」という思いで行われている活動についても理解を深めた。</li> <li>・「自分たちにできることは何か」という視点で、自分たちの活動を見つめ直したり、地域の方からのアドバイスを聞いたりした。</li> <li>・上記の活動を生かし、『花いっぱい青山』（有明福祉タウンの各施設へチューリップをプレゼント）の活動の内容や方法について話し合い、実践につなげた。</li> </ul>
5 学年	国語	<p>「やなせたかし～アンパンマンの勇気～」</p> <p>本文の読み取り学習後、図書館の書籍の伝記の中から一人の偉人を選び、じっくりと読み深めた。</p> <p>選んだ偉人の生い立ちやその人の考え方、それについての自分の考えなどについてまとめ、発表し合った。</p>
6 学年	国語	<p>「わたしと本」ブックトーク</p> <p>自分でテーマを決め、そのテーマに沿った同様の本を数冊借りて読み比べた。同じテーマで読むことで、新たな視点で本を捉え直すことに気付いた。同時に、自分にとって好みの本や好きな考え方、描き方に気付くことができた。</p> <p>上記についてお互いに紹介し、感じたことの意味交換を行うことで、自分の好みや考えを多面的に見たり、新たな感じ方に気付いたりすることにつながった。</p> 

		<p>「日本文化を発信しよう」</p> <p>「鳥獣戯画」の読み取り後、日本の文化の中で特に魅力を感じるものについて、図鑑などで詳しく調べた。</p> <p>タブレットに写真や図などで調べたことをまとめ、それをお互いに紹介し合ったり、発表したりした。</p>	
総合		<p>「青山の今と未来」～他の地域との比較から青山をみる～</p> <p>佐渡修学旅行に行くにあたり、佐渡についての調べ学習を行った。グループごとに詳しく知りたいテーマを決定し、図書館の書籍から、事前の調べ活動を行った。</p> <p>佐渡に行き、実際に見たり感じたり触れたりしたものを、事前の学習の中で知った知識や想像したものと比較することで、佐渡の魅力をよりはっきりと実感することができた。</p>	

## 6 今年度の実践を振り返って

読書を楽しめる子供になってほしいと願っている。そのために、まずは本を手にとってもらう必要がある。「図書館に1回でも多く通ってもらいたい。」その思いを、今年度は図書委員会の子供たち自身が感じ、そのための具体的な取組を考え、計画し、準備して、行動してくれた。本が好きなメンバーが、自分たちと同じように本を好きになってほしいという思いから、様々な企画を考え、来館を呼び掛け続けた。夏休みの開館日にまで来て、自主的に委員会の仕事をする姿からも、思いの強さがうかがえた。子供たちの頑張りもあり、来館人数は昨年度よりも増加。お薦めの本の完読賞受賞者数も増加した。子供たちの声は、やはり子供たちの心をより動かすものだと感じている。

iPadの全面導入から3年がたち、扱いに慣れた子供の様子がうかがえる。調べ学習において、図書館利用の回数は導入前と比較すると明らかに減っている。速さと手軽さから、すぐにiPadで検索する姿が多いのも事実である。しかしながら、書籍は正確で発信元が明らかな信頼できる情報であることや、じっくりと読み込みながらその情報と向き合いやすい点などを伝えることは重要である。学校現場だからこそできる指導を継続し、授業や諸活動を通して子供に体得させることを今後も大切にしていきたい。